

## 開 会 の 辞

名古屋大学農学国際教育協力研究センター長  
竹谷 裕之

師走の非常にお忙しい中、ご参加いただきまして厚く御礼申し上げます。特に文部省学術国際局国際企画課教育文化交流室の小山内優室長には、激務のさなかにお越しいただきました。心より御礼申し上げます。また、東京工業大学教育工学開発センター長の牟田博光先生、アメリカ・ジョージア大学国際農業開発室長のエドワード・カネマス先生、フィリピン・国際馬鈴薯センターのディンド・カンピラン博士、国際協力事業団企画評価部の三好皓一先生、これらの方々には今回、特別講演をお願い致しました。心より感謝申し上げます。また、明日は国立国際医療センター研究所をはじめ9つの機関、個人からご報告を賜ります。貴重な実践に基づいたご報告に関し、最初に厚く御礼申し上げます。

今回は本センターにとりまして、第2回目のオープンフォーラムです。昨年度、今年3月に第1回オープンフォーラムを開催いたしました。テーマは、「発展途上国の農学分野における人づくり協力の望ましいあり方」ということで、途上国の協力ニーズをどのように捉えるのか、協力活動の意思を持つ人材をどのように活用するのか、そしてこれらを支える基盤としての新しい学問をどのように作り出すのか等について活発にご討論いただきました。報告書は、現在印刷中で、ご参会の皆さん方に配付申し上げる予定です。

今回は、第2回目にあたり、望ましい人づくり協力を進め、協力内容の向上を図り、そしてより効果的な協力事業を行うために、現在、きわめて重要になっております評価問題を取り上げました。国際協力プロジェクトの評価、特にその中でも農学分野の人づくり協力を中心にして、種々ご検討いただきたいと存じます。いうまでもなく、評価については、そのレベル、あるいはどの地域の何を、だれがどのようにして、どのような時間軸で何のために行うのか、といった点が課題になると思います。言い換えれば、評価の目的、評価の対象、評価の方法、評価の時期、評価の主体、評価のシステム。こういった内容が、具体的に討議の対象になると思っております。

農学国際教育協力研究センターにおいて、評価問題に関連した仕事としては、昨年、本センターがコーディネートして、JICAが行ったネパール農業プロジェクトの外部評価事業を担当いたしました。皆様のご協力に感謝致します。

私の研究分野としては、土地改良投資の評価研究、農業・農村基盤整備について、1970年代ごろから取り組んでまいりました。日本では、1950年代から行われてきた基盤整備事業の評価が、研究の対象になりました。そこで作られた指標が、行政指標として確定され、現在も使われております。次に大きな研究上の波が訪れたのは、1980年代です。2度のオイルショックを経て、資源配分のあり方が問われ、農業・農村の比重が低下して、財政投入の見直しが要望されてまいります。この時期、OECDが研究チームを作り、水利事業、灌漑排水事業等を対象として、評価研究の方法について、いくつかの研究成果を発表しております。私自身もこれらに関わり、例えばシステムダイナミックス指標を活用して、従来の効果以外の効果をつかまえる手法開発を試みました。更に、1990年代には、農業・農村の持つ多面的機能をどのように評価するか、例えば人づくりも含めて評価しようという研究が進んでいることはご存じのとおりです。私自身、例えば宮田用水のパイプライン化事業の評価、あるいは明治用水の土地改良の上部利用、サイクリングロードや市民農園を用水の上に造る事業の評価等の仕事に携わっております。このような、さまざまな効果や影響を評価する手法が多様に開発された結果、現在、我々はさまざまな評価手法を活用することができるようになっております。もちろん、多様な国際協力プロジェクトに対し、より多面的な角度から評価・検討する必要があると考

えております。

今回のオープンフォーラムでは、国際協力プロジェクトの評価を、農学分野における人づくり協力を中心として検討していただきます。人づくり協力は国際協力の中でいよいよ重要になってきており、21世紀におけるODAの第一の柱に掲げられる内容になるでしょう。しかも、人づくりは一朝一夕にできるものではなく、その成果も時間をかけて現れると考えられます。人づくり協力事業について、直接・間接、あるいはタンジブル・インタangible、短期・長期の効果・影響評価を具体的にを行う必要があると考えております。この目的に向かって、本センターと致しましても、実態を踏まえながらより幅広い検討を積み重ねるつもりであります。そして今回のフォーラムがそのために役に立つことを期待しております。

今回のフォーラムでは評価の主体、だれが評価するのかという問題についても、講演、報告、討論がなされます。ここには、評価機関のあり方の問題と同時に、今では一般的になりました、住民参加型評価手法の問題が含まれると思います。また、援助機関の関心、プロジェクトへのフィードバックも、評価の一つの焦点になっております。更に、アカウントビリティ、納税者や国民に対する国際協力事業の説明責任に対する要望が高まってきており、透明性をより高める必要性が強まっております。住民、国民、援助機関など、評価主体にかかわる議論が、人づくり協力を中心にして、深められることを併せて期待いたします。

国立大学には、現在、教育協力に関与する複数の研究センターが作られております。例えば、広島大学には教育開発分野で国際協力センターが設置されています。本センターは、農学分野の教育協力が目的です。平成12年4月には、医学教育分野で東京大学にセンターが作られました。来年度は、工学教育分野で豊橋技術科学大学に作られることになっております。このような国際協力プロジェクトに関与する機関の評価のあり方も、今回のフォーラムでご討議いただければ幸いです。

開会の挨拶と致しまして、この第2回オープンフォーラムにかかわる趣旨を説明させていただきました。先程も申し上げましたが、ぜひ積極的なかたちでフォーラムにご参加いただくことをお願い申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。